



ぽれぽれしター ぽれぽれしター

第25号
2015.01.01

理念
「人とよりそう ひらかれた病院」
病院基本方針
※安心・安全ながん医療を提供します
※医療提携を進め、地域医療に貢献します
※豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内
内科 外科 脳神経外科
整形外科 耳鼻咽喉科
婦人科 泌尿器科 放射線科
消化器科 緩和ケア科
乳腺外科 腫瘍外科
【診療受付時間】
午前8:30～正午
【診療時間】
平日 午前9:00～午後5:00
土曜 午前9:00～正午
【外来の休診日】
日曜・祝日・年末年始
【お見舞い時間】
正午～午後8:00



2015年目標



平成27年の新春を迎えて、がんの患者さんに頼られる病院として今年も頑張っていきたいと思えます。

さて先頃、親戚の方より“熟成黒ニンニク”を送られ、お茶請けのようにして食していますが、考えてみると、ニンニクには、がんの予防や抑制に効果があることが知られています。1990年にアメリカの国立がん研究所が「デザイナーフーズ・プログラム」を発表していますが、これはがん予防に効果がありそうだとされた食品約40種類について、効果が高そうなものをピラミッドで示したもので、(病院長 中村 仁信) その頂点に立っているのがニンニクです。また、ニンニクに含まれる成分が大腸ポリープの成長を抑えるという臨床研究報告(広島大・田中信治)があり、「熟成中に有効成分ができるので、そのまま食べるより効果が高い」そうです。免疫力、抗酸化力が上がり、疲労回復にもよさそうなので、高価なサプリメントよりお薦めではないかと思えます。



2015年 新年明けましておめでとうございます。今年で当院も開院9年目を迎えることとなります。民間病院では珍しいがん専門病院として取り組んでまいりました。少しずつではありますが進歩を重ね、これからもがん患者さんに安心して頂ける病院として励んでいきたいと思えます。

また、今年が友誼会グループが開院して35周年の節目の年となります。35周年記念として5月30日、31日にフェスティバルホールで井上道義氏指揮、オペラフィガロの結婚によるチャリティーコンサートを催すこととなっています。収益金は国境なき医師団に寄付予定です。ご興味のあるかたは是非参加して頂ければ幸いです。



(院長補佐 林 太郎) グループ病院の友誼会総合病院では一般急性期、慢性疾患医療で(2年後に新築移転予定です)、またこの彩都友誼会病院ではがん治療で、地域医療と医療連携にますます貢献できるよう頑張っていきたいと思えます。



新年明けましておめでとうございます。

昨年後半は、病院機能評価受審の準備に病院全体が一丸となって頑張ってきました。受審のときの講評で、評価者から医師との協力体制を褒めて頂きました。今年もこの協力体制が維持できるように努力したいと思えます。

昨年は、病院周囲のミカンの木がたわわになるほどの豊作で、お味もよく、大変おいしくいただきました。保育園の子供たちには、毎年ミカン狩りをしてもらっています。

このミカンの木は、癒しの果物であるということを皆様ご存知でしたか？
春は桜が満開となり、秋には、みかんが生り、患者さまにとって少しでも癒される空間となればと思っております。

また、昨年11月からは、駐車場の整備が行われ、病院の前のあさぎ通りに面した場所に第2駐車場が用意されました。病院敷地内の患者さま専用の駐輪場が広くなり、防災上や、救急時の搬送にも安全性が担保されました。水曜日の駐車場不足も解消されると思えます。

彩都友誼会病院は、患者さまに、ホットしていただける空間を大切に、寄り添えるケアを心がけてまいります。



(看護部長 東村昌代)





～肺炎球菌ワクチンで高齢者肺炎を予防しましょう！！～

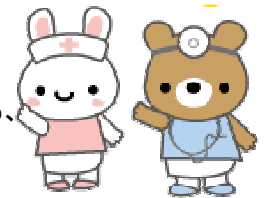
我が国では人口の急速な高齢化を背景に高齢者の肺炎による死亡が年々増加し、2011年以降肺炎は死因の第3位となっています。肺炎は抗菌薬によって治る病気と軽視されがちですが、高齢者に関しては決してそうではありません。2012年の厚生労働省の統計では、肺炎死亡例の96.8%が65歳以上の高齢者だったと報告されています。高齢者はCOPDや慢性心疾患などの基礎疾患を持っていることが多いのも一因ではありますが、特に基礎疾患のない人においても、65歳を過ぎるあたりから肺炎の死亡率が急上昇することが明らかにされています。つまり高齢であること自体が肺炎の危険因子と言えます。

高齢者肺炎の特徴

- ① 初期症状として食欲不振・全身倦怠感などの一般的な症状が多い。
- ② 発熱がない、あるいはあっても軽度なことが多い。
- ③ 不機嫌や異常行動などの精神症状を伴うことがある。
- ④ 自覚症状が少なく重症化して初めて受診することも多い。

高齢者肺炎の原因微生物として最も多いのが肺炎球菌という細菌です。肺炎球菌は毒性が強いため重症肺炎になりやすい上、最近では多くの抗菌薬が効かない多剤耐性菌も増加しており、治療の困難な患者さんが増えています。また高齢者肺炎には(表)に示すような特徴があり、早期診断・早期治療は必ずしも容易ではありません。

そのようなことから、肺炎にならないようにする予防接種が重要と考えられるようになりました。また肺炎で入院すれば多額の費用がかかりますので、昨今問題となっている医療費増大の対策としても、肺炎の予防は役に立ちます。



2014年10月から高齢者に対する肺炎球菌ワクチンが定期接種化されました。定期接種は基本的に公費負担で、健康被害が出たときには国が救済するという点が任意の予防接種と大きく違うところです。本年度の対象者は、65歳とそれに5の倍数を加えた年齢の方および60歳～65歳未満で国が指定する基礎疾患のある方です。該当する方には是非予防接種を受けて頂きたいと思います。

ただ、予防接種を受ければ全ての肺炎が防げる訳ではありませんので、基礎疾患のある人はその治療をきちんと受けることや、高齢者に多い誤嚥を防止するための食事の工夫や口腔衛生も重要であることは言うまでもありません。

肺炎球菌ワクチンの副作用として、注射部位の痛み・発赤・腫れなどが起こることがありますが、重大な副作用は稀とされています。なお定期接種の回数は現在1回のみです。ワクチンの予防効果は5年以上持続すると考えられていますが、それを経過した場合、再接種を行うかどうかは今後の課題です。
(内科医師:西尾 浩)

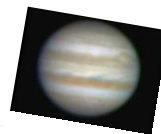
当院でも肺炎球菌ワクチンの接種を行っています。希望される方は医事課で予約を取り、予防接種を受けて下さい。

★院内のあなとこ、こんなとこ...★



当院の屋上に銀色に光る丸い帽子のようなもの。皆さんは何だと思いませんか?? 不思議かもしれませんが、天文台となっています。

天文台の中には、口径が60cmもある巨大な反射型天体望遠鏡が設置されており、大阪府下でも有数の大きさを誇っています。天文台へと続く階段がある入り口の扉を開けると、宇宙服を着た人形がお出迎えしてくれます。この天文台に上がるためには、狭くて急な螺旋階段を上らないといけないため、残念ながら患者さんには公開されておりません。ですが、地域の天文クラブ(AOA)の方々のご協力と定期的な近隣の子供達に開放したり、この望遠鏡で撮った写真を1階の大型モニターで放映したりしております。当院のシンボルといった感じですね。



編集後記: 今年是一段と寒いので風邪を引かないよう、ひつじのようにモコモコの防寒対策してくださいね!! (伴野)

発行者: 中村仁信 (病院長) 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号
編集長: 福西康修 (放射) Tel.072 (641) 6898 Fax.072 (641) 6097
編集委員: 宮田徹明 (医師) 岩切昭夫 (看護) 常島啓司 (情報) 志田原直子 (医事課)
春名雅裕 (リハビリ) 伴野真希 (放射)

<http://www.saito-yukoukai-hp.jp/index.htm>

「ほれほれ」はホームページからダウンロードできます!

このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい